

「土木技術者と学生の交流会」実施報告書  
(平成27年度 愛知工業大学開催)

●開催内容

- ・日 時：平成27年10月26日(月) 14:40~16:10
- ・場 所：愛知工業大学八草キャンパス 1号館2210号室
- ・出席者：1年次学生 **164名** (対象科目：「土木工学セミナー」)
- ・講演者：中村吉男 (㈱アイコ代表取締役社長)
- ・講演題目：「土木技術者に求められるもの」－何を学び、何を専門とするのか－

●実施報告

- ・講演趣旨：土木構造物が計画され出来上がるまで、どれだけの人がある事業に関わるのか、行政(計画・予算措置)、コンサル(調査・設計)、ゼネコン(施工)の各役割と職種的な特徴はなにか、大学で学修する事柄がどのような形で実務に活かされるのか等を、ダム建設を中心に語り、討論する。
- ・実施状況：以下のような項目の流れ(A4紙1枚に話題項目を整理して配布)に沿って、1年生にも理解できる程度に、噛み砕いた調子で、パワーポイントによる解説がなされた。
  - ① 理学(真理の探究)と工学(ものづくり)
  - ② 工学の源流(Engineering, Civil Engineering, Military Engineering)
  - ③ 土木事業(良質な生活空間を構築・整備する仕事、様々な土木構造物)
  - ④ 土木工学と社会(社会基盤の整備の程度が文明度の尺度)
  - ⑤ 公共事業(税金=公共投資による社会基盤整備)
  - ⑥ ものづくりの順序・工夫・方法(事業者→測量→地質調査→建設コンサルタント)
  - ⑦ ものづくり(ゼネコンの様々)
  - ⑧ ものの値段=積算(土木構造物は現地一品生産、積算手順)
  - ⑨ 土木工学科で学ぶこと(自然現象と対峙する実学)
- ・意見聴取：講演の最後に下記の質問票を渡し(出席確認含む)、学生の意見を聴取した。
  - ① 将来展望：将来の仕事(希望する職種)について、優先順位を付けて三つ挙げなさい。  
【 1)官公庁、2)測量会社、3)地質調査会社、4)建設コンサルタント  
5)建設業者、6)資材メーカー、7)その他 】
  - ② ①の選定理由：どのような観点で選定したか、または選定したいと思っているか？

以上、報告いたします。

報告者：土木学会中部支部幹事 成田国朝(愛知工業大学、地域WG)

追記：

本講演会は土木学会中部支部・地域WGが企画する「土木技術者と学生の交流活動事業」のうち“学校の授業の一環として実施する活動”として開催したものである。授業の一環であり、かつ時間的・場所的な制約から、聴講者は本学の学生（1年次）のみであり、果たして学会の企画趣旨に沿っているか、いささか疑問に思うが、実施した大学からすれば良い機会を与えて頂いたようにも思う。と言うのは、本学では（どの大学も似たり寄ったり？）初年次学生に対し、土木へのモチベーションを高めるために、何かにつけて“土木とは、土木の職種は、土木で何を学ぶか”などをセミナー等の時間を使って訴えているが、やはり“実務経験が少ない”教員の話だと、説得力とか重みに欠ける部分が有り、現業の方々の生の声を聴いてもらうチャンスは貴重である。ただし、「交流会」と称する限り対話型の企画が望まれるが、今回は打ち合わせの時間が限られていたことや、聴講生が約170名と多く対話型が困難な面もあり、「講演会」という形式をとった。それでも何か学生の意見を聞こうと言うことで、最後に出席替わりのアンケート調査を行ったが、こういった実施方法・手順は、経験を積めばより良い方向に改善されるのだから、次回への反省として、ここに書き留めておきたい。

(2015. 10. 28 成田)

●写真：中村氏の講義を熱心に聞く1年次学生

